

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校を目指して

自分の一歩 みんなの一歩

校長室だより II

朝霞市立朝霞第一小学校

令和3年8月31日

No.42 (合同No.15)

校長 野口 邦彦

東京2020オリパラに思う①

「強さ」を支えるのは「感謝」の心

開催前は色々あったオリンピック、パラリンピック。しかし、いざ始めると見入ってしまうのが人情。アスリートの素晴らしい活躍を見ていると、私自身、思わず熱くなり、何か活力や勇氣、元気をもらう事ができ、あらためて、スポーツの持つ力は「すごいなあ」と感じました。柔道、卓球、スケートボード、サーフィン、ソフトボール、体操、アーチェリー、水泳など、今回は無観客という開催国としてのアドバンテージがない、そんな中でも活躍する日本人の姿を見ていると、日本の逞しさ、底力、そして誇りを感じました。

特に私が興味を持ったのは、試合後のインタビューなどで語られるアスリートの言葉、そして、敗れた時のアスリートの姿です。

まずは言葉。オリンピックと言う大舞台、その場に選手としていただけでも、すごいことです。この舞台に上がる為に、選手一人一人がどれだけ努力し、がんばってきたのか、それは我々が想像する以上のものがあると思います。その努力が実り夢叶える選手、一瞬にして夢破れてしまう選手、悲喜こもごもです。「うれしさ」「くやしき」「自分ががんばったから」など、色々な感情が渦巻いていると思いますが、どの選手の言葉からも、まず出てくるのは「感謝」という言葉。今まで自分を支えてくれた人、応援してくれた人への「感謝」コロナ禍において、この舞台をつ

卓球 混合ダブルス



くってくれたことへの「感謝」。「心技体」という言葉があるように、アスリートのすばらしいパフォーマンスの土台となっているのは「心」であり、特に「強さ」を支えている、生み出しているのは「感謝」という気持ちであると、アスリートの言葉を聞いていて、あらためて感じました。

そして、もう一つは敗れた選手の「姿」です。「グッド・ルーザー (good loser)」という言葉があります。「負けても潔い人、負けっぷりがいい人」と言った意味です。スポー

ツの世界、頂点に立てるのはたった一人、ほとんどの人が敗者となります。頂点に立った人は、喜びを爆発させます。しかし、敗れた人には、くやしき、ふがいなさもあるでしょう。でも、その気持ちを抑えて、どういった態度をとるか、それもそのアスリートの真価です。

色々あった今回のオリンピック・パラリンピック。それでも、各アスリートはすばらしいパフォーマンスを見せてくれました。それぞれのアスリートには、それぞれのドラマがあります。そんなアスリートのドラマを感じさせてくれる言葉や姿、その中には私達が学ぶべきものがたくさんあります。全てのアスリート、そして、オリパラ関係者に素直に「感謝」したいと思います。すばらしい感動をありがとうございました。

ソフトボール

